



ひがし北海道で考える ワーケーション シンポジウム

～地域としての論点整理からパネルディスカッションへ～



専務理事 野竹鉄蔵



ひがし北海道
自然美への道
D M O

COVID-19 in eastern Hokkaido

この先へ向けた論点

- 【With COVID-19 コロナにも自然にも寄り添うこと】
- 【After COVID-19 今後明らかに移行すること】
- 【Post COVID-19 今後いかにも切り替わること】
- 【None of COVID-19 本来そうあるべきこと】

●キーワード

- ・まずは政府・自治体の示すスタイルを順守しながら新しい対応の試行錯誤を粛々と
- ・市場復活は、自地域内⇒近隣⇒道東⇒札幌圏⇒道外⇒東アジア⇒ASEAN⇒欧米
- ・インサイド目線の着眼点=マイクロツーリズムへの深化=着地型観光への視点拡大
- ・テレワーク他通信体制の激変によるワーキングスタイル、ライフスタイルの変化
- ・オンラインバーチャル⇔対面の意義 ビジネス移動減 本来の観光の意味とは？

ひがし北海道の観光はどうあるべきか



～この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる～
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

全体概要

●各マーケティングデータより...

①顧客からみたひがし北海道エリアの優位性

- ・ソーシャルディスタンスなフィールドひがし北海道
- ・自然から自然美へ <地域からのメッセージ>

②Beyond COVID-19 戦略ターゲット

③ひがし北海道【自然美 × 交通】ネットワーク商品

④ワーケーションを軸とした第3の観光交流へ体制化

- ・中期的 《販売体制/地域体制/各発信体制/通信体制》 来夏へ

⑤2021～ ひがし北海道課題と方向性

- ・phase1・phase2・phase3
- ・ひがし北海道観光地域づくり・・・DMOとしてのものがき

～この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる～
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

ひがし北海道エリア 優位性と持続性へ

○ソーシャルディスタンスなフィールド ひがし北海道

- ・データから見るひがし北海道らしい素朴スポットのポテンシャルアップ
- ・一方で、持続性ある**メッセージ**で あくまでもWith COVID-19から...
 - ➡各地の《**自然に寄り添う**》動きを発信 **好感度**を引き上げる
 - ➡各地の《**With COVID-19**》対策を発信 **不安度**を引き下げる



ソーシャルディスタンスの丘?

○自然から**自然美**へ

- ・データから見る自然志向や癒しを求める傾向、さらには深化志向に乗じて
- ・自然に寄り添う人と関わるstory 発信をこの機に強化 **自然単体から脱皮!**
- ・後述する総合的な着地型観光体制でひがし北海道らしい素材を**商品化**
 - ➡欧米(アドベンチャー)時代へ向け、**国内客でも各地が関り**裾野を広げる!
 - ➡ひがし北海道全体でこのクローズアップ発信強化 = **道央と差別化**

粛々

持続

販促

反転

攻勢

持続

どこまでも
持続的観光

with COVID-19のなか、この機に改めて
「北海道らしさ」と「自然美」を持続的に生かしたい

Beyond COVID-19 コロナを越えて 「ひがし北海道 新・観光スタイル」

一般社団法人 ひがし北海道自然美への道DMO

今、ひがし北海道へ…とお考えの方へ。
地域からの思いです。



北海道の中でもとりわけひがし北海道は、人もいない、自然に囲まれており、まさしく、**ソーシャル・ディスタンス**な地域です。また、本州からも距離も遙か彼方、小さな町が広く点在するだけで本当にどこからどこまでもディスタンスといえます。

が、せっかくここまで来ていただいて**密**になっては元も子もありません。各地域、観光事業者、施設などは『**道庁からのガイドライン 新・北海道スタイル**』を順守して安心にお過ごし頂けるよう対応しています。ですから、あとはいかにも広い…と言われるスポットでもどうか同様に距離を保ちながらお過ごし頂くようお願いいたします。

また、ひがし北海道は自然と寄り添って来た風土としてオリジナルな**STORY**があります。そのような関連場所へもこの機に足を延ばして頂き、地域のひととのふれあいや食や温泉などでより深い癒し感を感じて頂ければと思います。ただ、より遠くへ奥深くと言っても、畑や牧場には決して入らないで下さいね。ウイルス、雑菌の問題は動物も食料生産地も同じです。改めてよろしく申し上げます。

また、地域ではこの機にひがし北海道ならではの自然とともに生きてきた民ならではの**withコロナの思いを生かした取り組み**があります。各地域、事業者、思い思いの今だから改めて気づく自然への素直な気持ちからの取り組みです。この先のhpでご紹介いたします。自然から自然美へ、ひがし北海道の新たな奥深い魅力とそこに生きるこだわり…に触れて頂く機会になればと切に願います。

今はまだ現地へは…と思われる方へは、この機に動画やYouTube、**バーチャルツアー**などの**発信**を強化いたしました。こちらへは是非ともすぐにご参加ください。そのなかにリアルなひがし北海道の魅力に気付いて頂き、またの機にお越しください。

Beyond COVID-19 「ひがし北海道 新・観光スタイル」

自然に寄り添う 各地域からのメッセージ

一般社団法人 ひがし北海道自然美への道DMO

自然と人との、濃密で深い関わり。

これからも、皆さんと一緒に物語を紡いでいきます。

Beyond COVID-19 「ひがし北海道 新・観光スタイル」

with COVID-19における 各地域の取り組み

一般社団法人 ひがし北海道自然美への道DMO



マーケット志向に基づくひがし北海道からの情報発信

Beyond COVID-19 「新・ひがし北海道観光スタイル」

自然に寄り添う 各地域からのメッセージ

一般社団法人 ひがし北海道自然美への道DMO

斜里・ウトロ

世界自然遺産の誇りを胸に、
持続可能な生態系を守っていきます。

海から陸につながる貴重な生態系が知床の最大の魅力になっており、知床の大自然を満喫できるアクティビティが観光客の人気を集めています。また、貴重な生態系や野生動物との共存を図るためのさまざまな取り組みも行われています。

「斜里・ウトロ」の動き・取り組みです。

STOP! えさやり! 「知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン」



グマや多くの野生動物が生息。人間の安全や動物たちの命まで奪うえさやりやゴミの放置禁ずる動画を制作しています。

詳しくはこちら

海岸線や街なかもきれいに!
「知床ゴミ拾いプロジェクト」



路上や海岸にゴミが多く見られる知床。ヒグマや野生動物の命、知床の自然環境を守るために、有志を募って、定期的にゴミ拾い活動をしています。

詳しくはこちら



2つのカルデラ湖は
大自然に身をゆだねることができる

火山活動によって生まれた摩周湖、屈斜路湖という2つの湖があるひがし北海道屈指の観光地、摩周湖は霧の発生が顕著で、見晴らせる日が少ない神秘的な湖として知られています。屈斜路湖は日本最大の大きさを持つカルデラ湖で、湖岸に「摩周」、「コタン温泉」なども人気です。冬はハクチョウが飛来、カヌーのメッカとしても知られています。

「摩周・屈斜路」の動き・取り組みです。

コロナ禍を乗りこなすアイヌ民族の伝統儀式



カヌーでしか行けない屈斜路清流部の「熊の洞」



早朝にだけ現れる絶景。「摩周・屈斜路雲海ツアー」



Beyond COVID-19 「新・ひがし北海道観光スタイル」

with COVID-19における 各地域の取り組み

一般社団法人 ひがし北海道自然美への道DMO

帯広・十勝

食品の安全・安心も。
お客さまの安全・安心も。



北海道の食の魅力が詰まった十勝。コロナウイルスへの対策をとりながら、十勝の食の魅力をごさまざまな形で感じられる取り組みがはじまっています。

「帯広・十勝」の動き・取り組みです。

新鮮野菜をお手頃価格で販売する新しい取り組み「ドライブスルー八百屋」



接触少なくし安全な方法で野菜を提供する「ドライブスルー八百屋」を帯広市で開始。帯広卸売市場直送の葉物やカーテンの設置など対策も万全。十勝の大自然で安全に野菜などを詰め込んだ「もったいない野菜セット」を予約制で販売しています。

詳しくはこちら

「スノーピーク十勝ポロシキヤンパフィールド」で心身リフレッシュ!



密を避けたキャンプをするならここ。利用者数の制限を設け、利用の方へ検温の協力や飛沫感染防止のビニールカーテンの設置など対策も万全。十勝の大自然で安全にキャンプを楽しめます!

詳しくはこちら

脱・3密! 「北の屋台」で帯広グルメを満喫



帯広の中心部にある屋台村「北の屋台」では感染防止対策に取り組み営業中です。席の間引きをし、夏の屋台は暑が関係しているため換気が良く、帯広の夜風を感じながら、食事を楽しめます。

詳しくはこちら

知床の新しい観光スタイルへ「コさん」のピクトグラムを作成



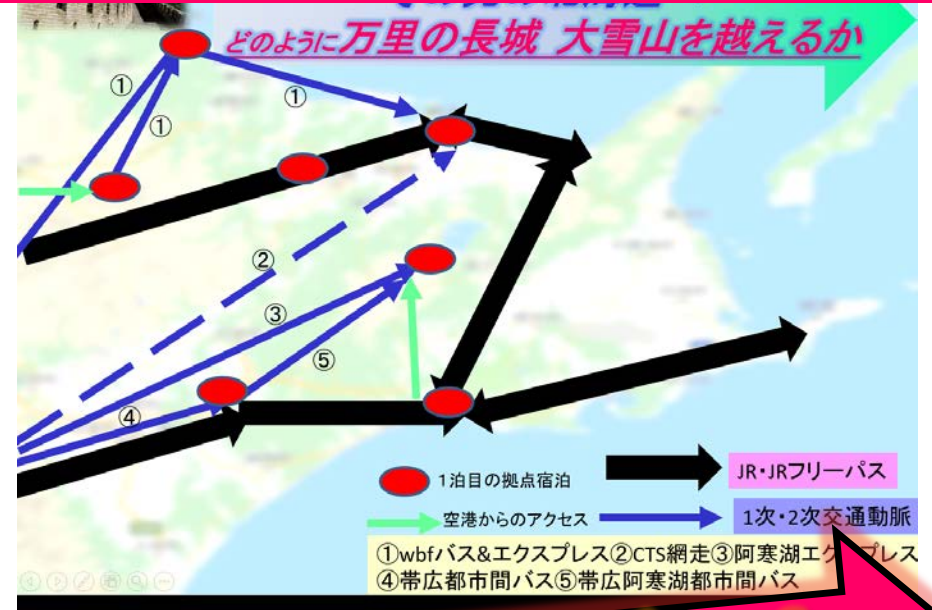
「斜里・ウトロ」の動き・取り組みです。

海上でも感染予防対策! 知床半島クルーズ



ウトロのル&リン

ひがし北海道ダイレクトインへのネットワーク



重要なのはアナログMaaS
 ~地域ブロックでの協議が必須~

- 空と地上《JR/路線バス/2次交通》との一体化
- フリーパスなどサブスク定額運賃チャレンジ
- 一元化した販売システム
 全体のネットワークプラットフォーム構築
- ワーケーションも視野に入れた体制化



~この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる~
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

④ ワーケーションを軸とした**新しい観光交流**

○第3の観光交流創出

○持続的観光体制への方向性 北海道に適合？ **注目**

➤また重要なのは【**Why to stay**】**どう過ごせるか？**

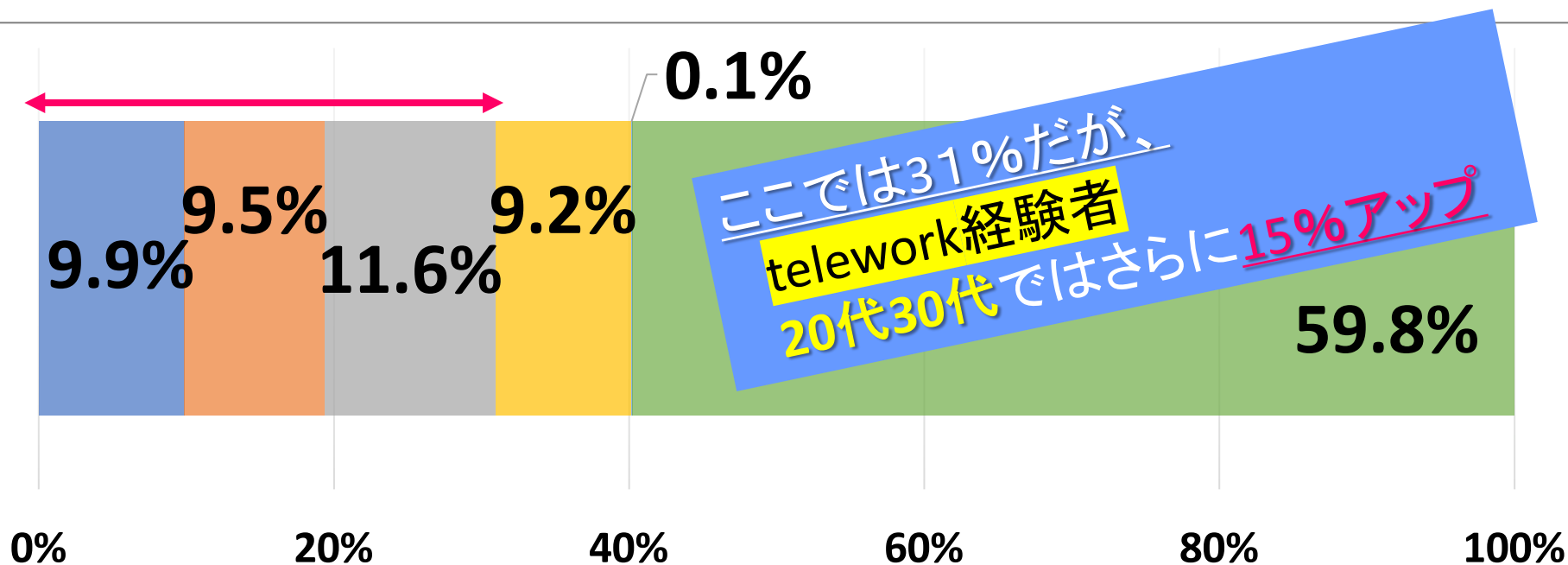
宿泊施設だけでなく、コンテンツだけでなく

workの一面：創造力∞ 人ふれあいも重要

⇒連携DMOとしては 市場にプラットフォームと可視化

《ひがし北海道ワーケーションネットワーク》へ!

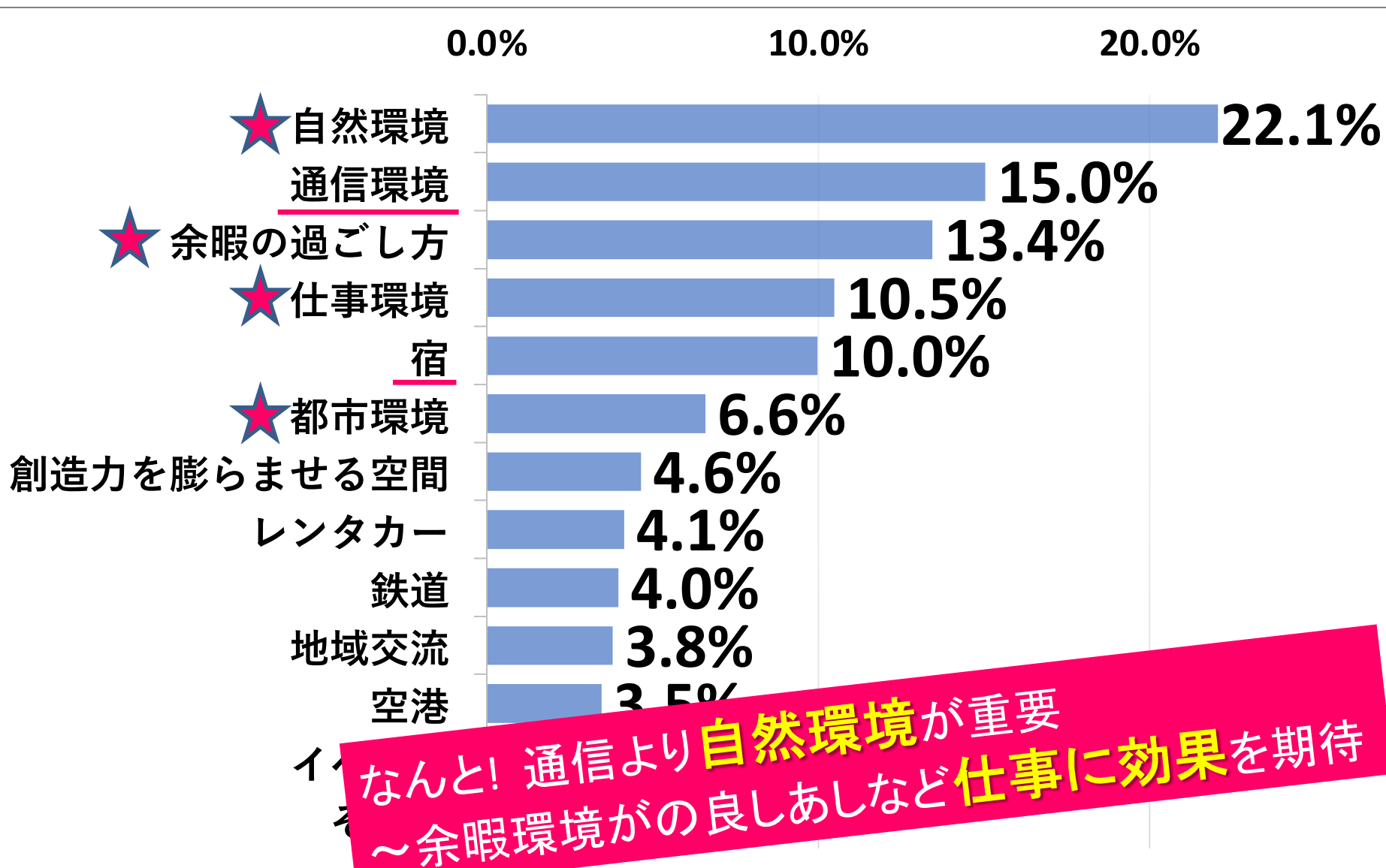
道外：ワーケーションの認知度



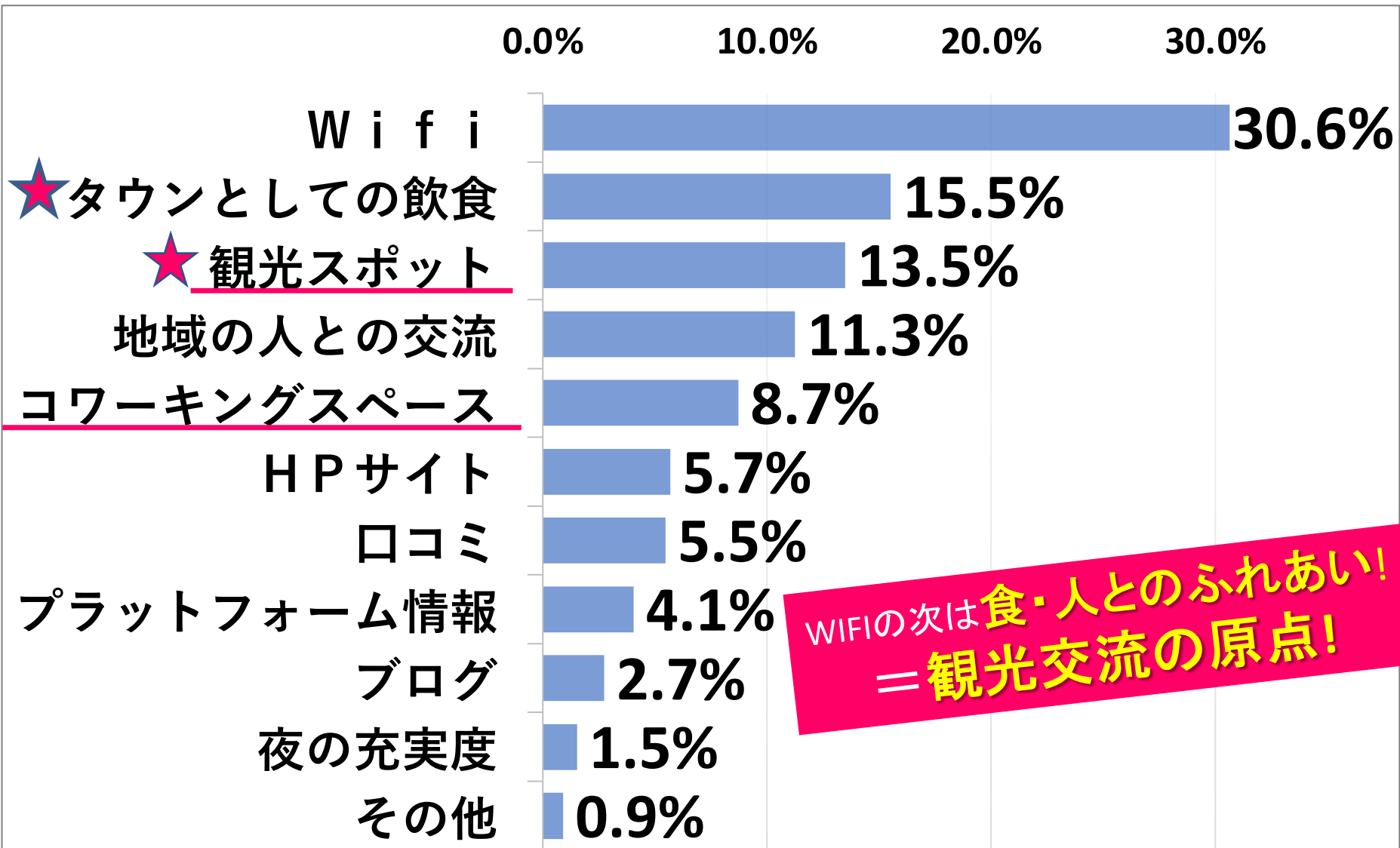
- 知っている（してみたい）
- 知っている（実際のイメージはない）
- 聞いたことがあるが興味がある
- 聞いたことはあるが自分には関係ない
- 魅力的だが自分の職業では不可能
- 聞いたことがない

ここでは31%だが、
telework経験者
20代30代ではさらに15%アップ

道外：ワーケーションに重要なキーワード



道外：ワーケーションに具体的に重要なもの



WIFIの次は食・人とのふれあい！
＝観光交流の原点！

日本型ワーケーションの考え方

1. 休暇中に仕事を織り込んだスタイル



雇用型ワーケーション

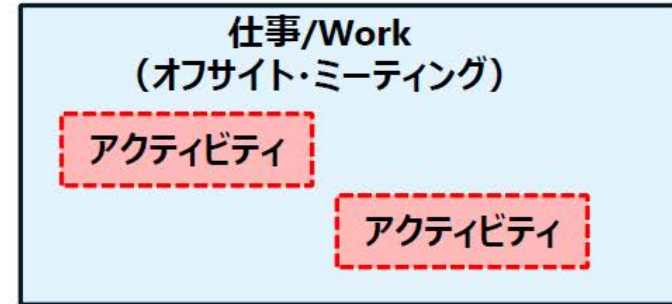
2. ブレジャー(出張前後に休暇/レジャーを付け足す)



※2019年度 JTB利用者の割合 12.1%
 現地滞在期間 2.14泊 / 消費額 約2.3万円

出典：関西大学 松下慶太 (2019) note「広がる日本型ワーケーション」を基に山梨大学 田中敦作成 <https://note.com/matsulab/n/nc65715471648>

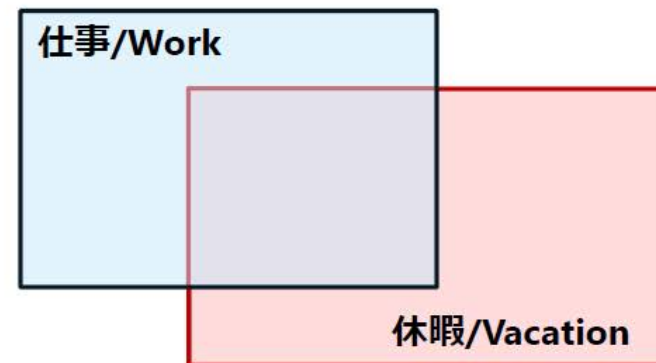
3. オフサイト会議 (団体での研修)



※2018年度 JTB取扱額365億

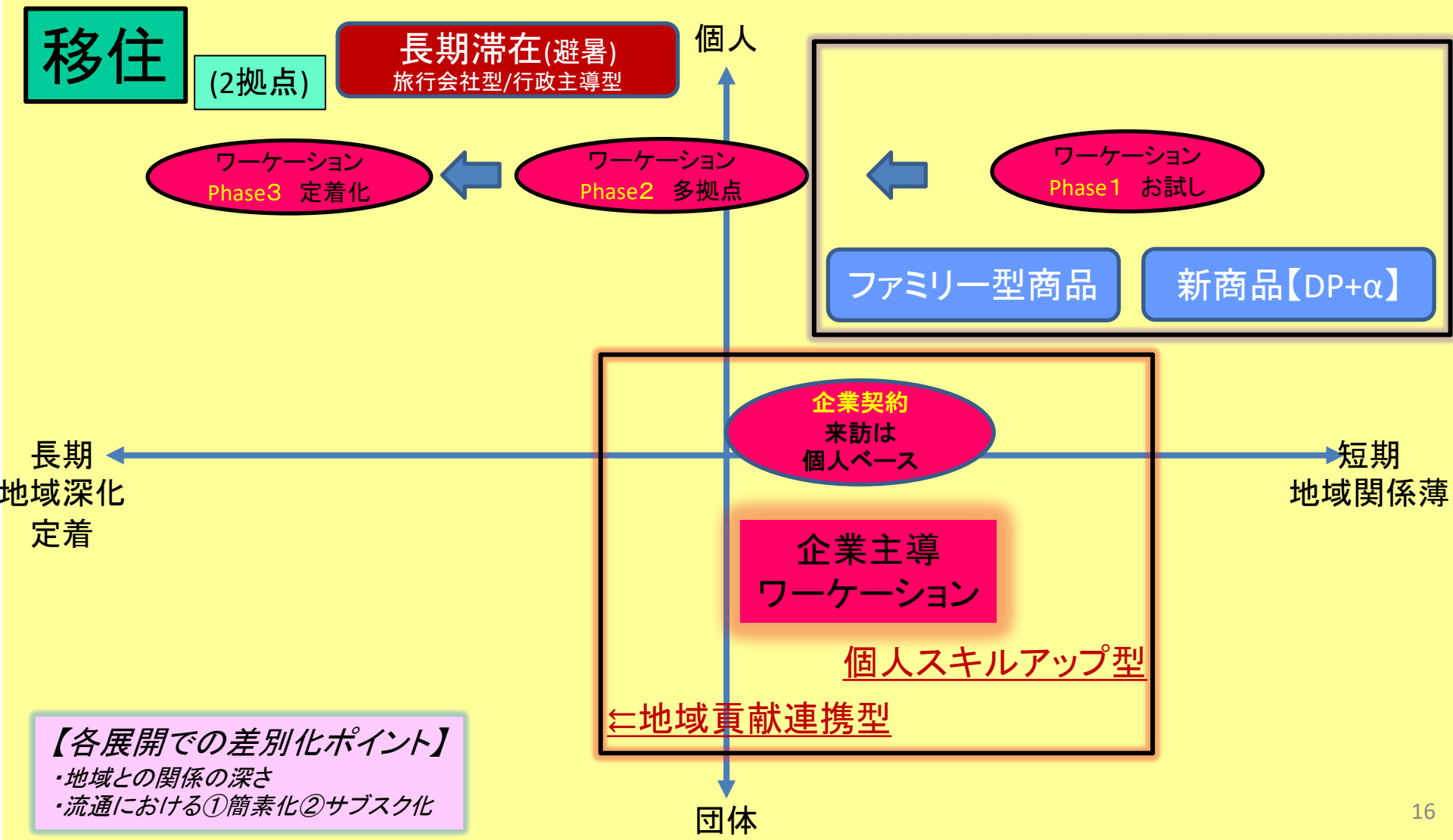
4. 仕事と休暇を重ねて織り込んだスタイル

(サテライトオフィス利用、副業、ノマドワーカー等)



~この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる~
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

流通から見たワーケーション全体概要



~この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる~
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

ワーケーション 経済効果への図式

各タイプと客層





～この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる～
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

第3の交流/ワーケーションを軸とした地域の観光体制への強化

ひがし北海道ワーケーションネットワーク～

《ワーケーションの体制化》

- 着地型観光進展とまちづくり、
- 発信、受け入れ双方オンライン化
- 商品流通促進

ワーケーションを切り口にした
 ひがし北海道観光地域づくり
 そのもの

どのように**持続性**あるものにするのかが課題
 ～自然への持続性だけでなく**経済の持続性**も含む～



コロナによる観光関係の変化...

- **原点回帰** 観光交流そのものの価値観の変化...・持続的
- **マイクロツーリズム** 往訪目線 受入目線 まなざし変化
- **STAY型** 人 交流 ライフスタイルツーリズムへ
- **通信激変** TELEWORK 働き方改革 ライフスタイル変化
- **訪日客対策** ➔全国4000万から6000万へ 質/収益...

これまでとは違う闘い

爆買いからツーリズムへ

モノからコトへ人へ

普通の日本へのあこがれ
ローカルにこそ分がある...

暮らすように
旅する

ワーケーション体制づくりは
観光地域づくりそのもの!

地域主体の自律的観光

住んでよし訪れてよし=DMOの使命

ひがし北海道全体でも
ワーケーションの優位性を引き出せないか

ひがし北海道
ワーケーション
ネットワーク

紋別AP

女満別AP

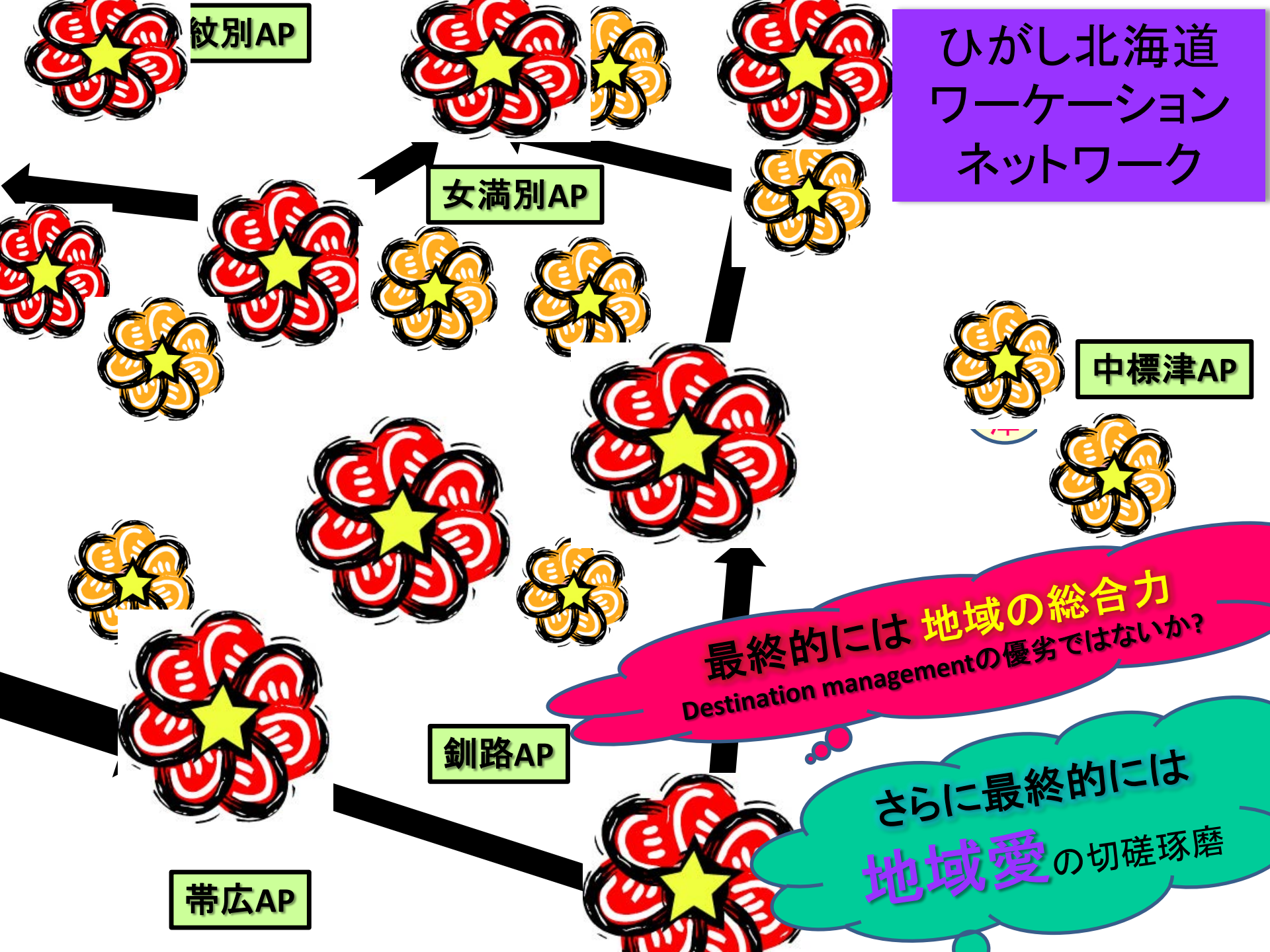
中標津AP

釧路AP

帯広AP

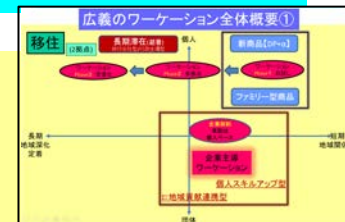
最終的には **地域の総合力**
Destination managementの優劣ではないか？

さらに最終的には
地域愛の切磋琢磨



～この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる～
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

旅行会社連携による新しい観光



○個人型(DP/ファミリー)による第一歩 旅行会社・OTAの領域

- DP(AIR+宿泊)によるシンプル商品から コンテンツなどは加えづらい・価格型
- 宿泊サイトから 施設内勝負に加え地域素材のとの連携
- ファミリーと組み合わせた旅行会社商品 ロングだが夏季に集中 STORY性

○企業型による連携アプローチ 旅行会社・地域・とのマッチング

- 企業研修/オフサイトミーティング/インセンティブ グループ組織行動・周辺コンテンツなど必須
- 企業契約による個人/家族展開 保養地的機能の運用 リロケーションモデル

肝心なのは 日本全国の価格競争のなかでどう差別化・付加価値化?

⇒次頁の Why to stayとそのネットワークがカギになるのでは?

地域観光体制(周辺地域含) 整理による販促アプローチが必要

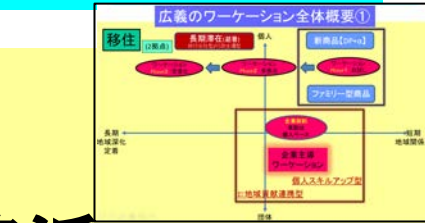
～この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる～
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

新しい観光交流へのステップ

○個人型phase 1・2・3を軸とした展開 本格派

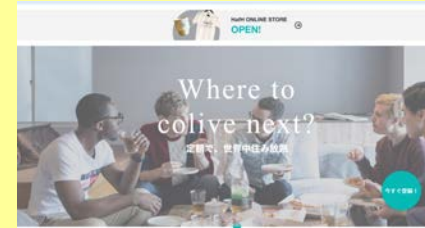
▪ **宿泊施設 ネットワーク構築** = HafH network 全世界200

- ・ホテル系 阿寒湖 ウトロ 網走 サロマ湖 ⇒数か所増やす
- ・ゲストハウス系 帯広 釧路 中標津 ⇒数か所増やす



▪ **Why to stay ネットワーク構築** = DMOは観光&交通プラットフォーム

- ・各コンテンツラインナップ コワーキングスペース整理
- ・town情報 地域ネットワーク拠点・・・各地情報の整理 ~コンテンツの整備は今年度肅々と(環境省事業)



➤ **推進機能** 【ANA journey+】 年数本設定《地域交流イベント》

➤ **販売機能** 【ANAシェア旅hp】 《ひがし北海道ページ》

➤ **INOUT機能** サブスク(定額)運賃実証実験
 宿泊ネットワークでのサブスク設定



地域連携DMOとしては**プラットフォーム共有と市場へのアプローチ**

～この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる～
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル



通信体制激変と対応・持続的へ

オンライン体制の激変 地域内での通信親和性を高める機に

- ・ **受け入れとしてのオンライン** 本来の通信環境整備は当然のこと
受入れ体制からDMO組織体制への転換 部会 100人衆 寺子屋
- ・ **発信としてのオンライン** 旅前で選ばれるために！ EXバーチャルツアー
無料有料動画発信によるひがし北海道可視化 & 自然美IDENTITY発信
一方でコロナ後、シニアリピーター女性層のジレンマ<外出控vs来訪欲>
EX北海道旅スタイル調査での バーチャル×通販 クラウドファンディングなどのWEB意識大の傾向

通信体制激変からライフワークの変化
【**当たり前のニューノーマル**】

新しい取り組みそのものが
(知らず知らずのうちに)
＝ワーケーションの取組化

このシンポジウムも

リアル×オンラインライブ×アーカイブ
《オンライン・オフライン》3本建て

視聴・4か月前

0:25
2020/08/21

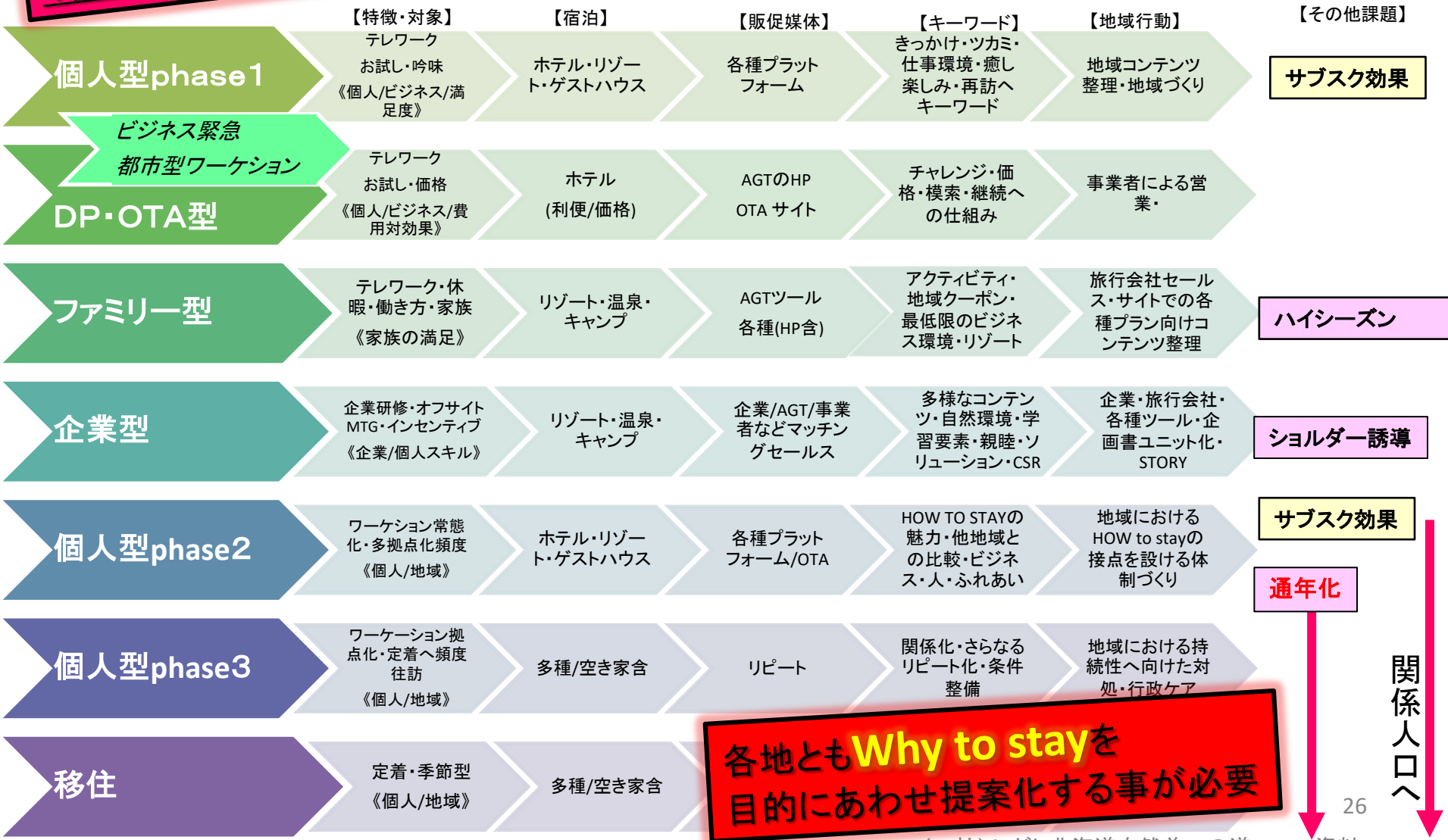


~この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる~ Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

どの地域がどのタイプに
マッチングするのか?

ワーケーションの分類(商品化)

無断転載禁ず



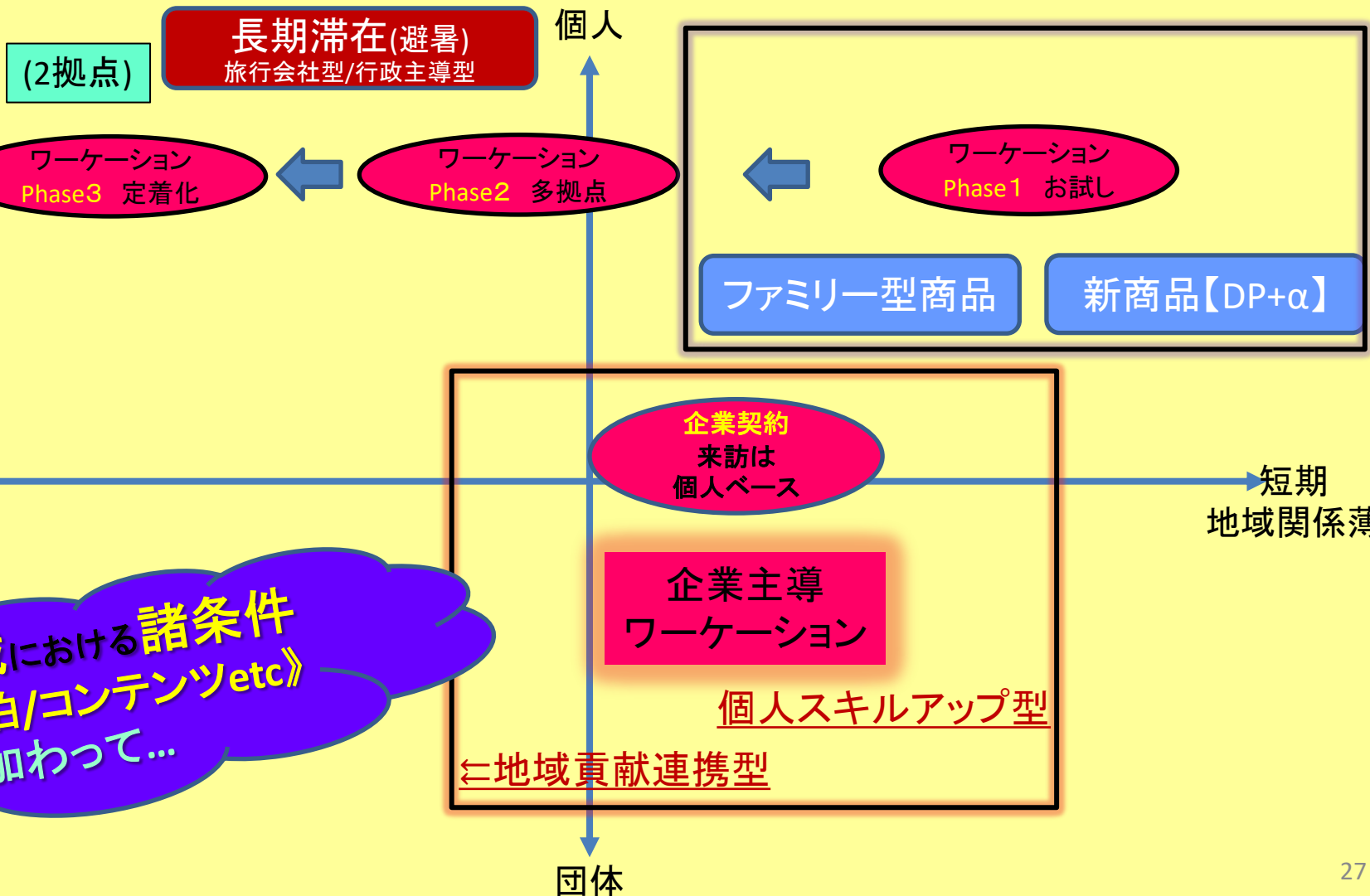
各地ともWhy to stayを
目的にあわせ提案化する事が必要



~この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる~
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

流通から見たワーケーション全体概要

移住



長期
地域深化
定着

短期
地域関係薄

× 各地域における諸条件
 《交通/宿泊/コンテンツetc》
 が加わって...

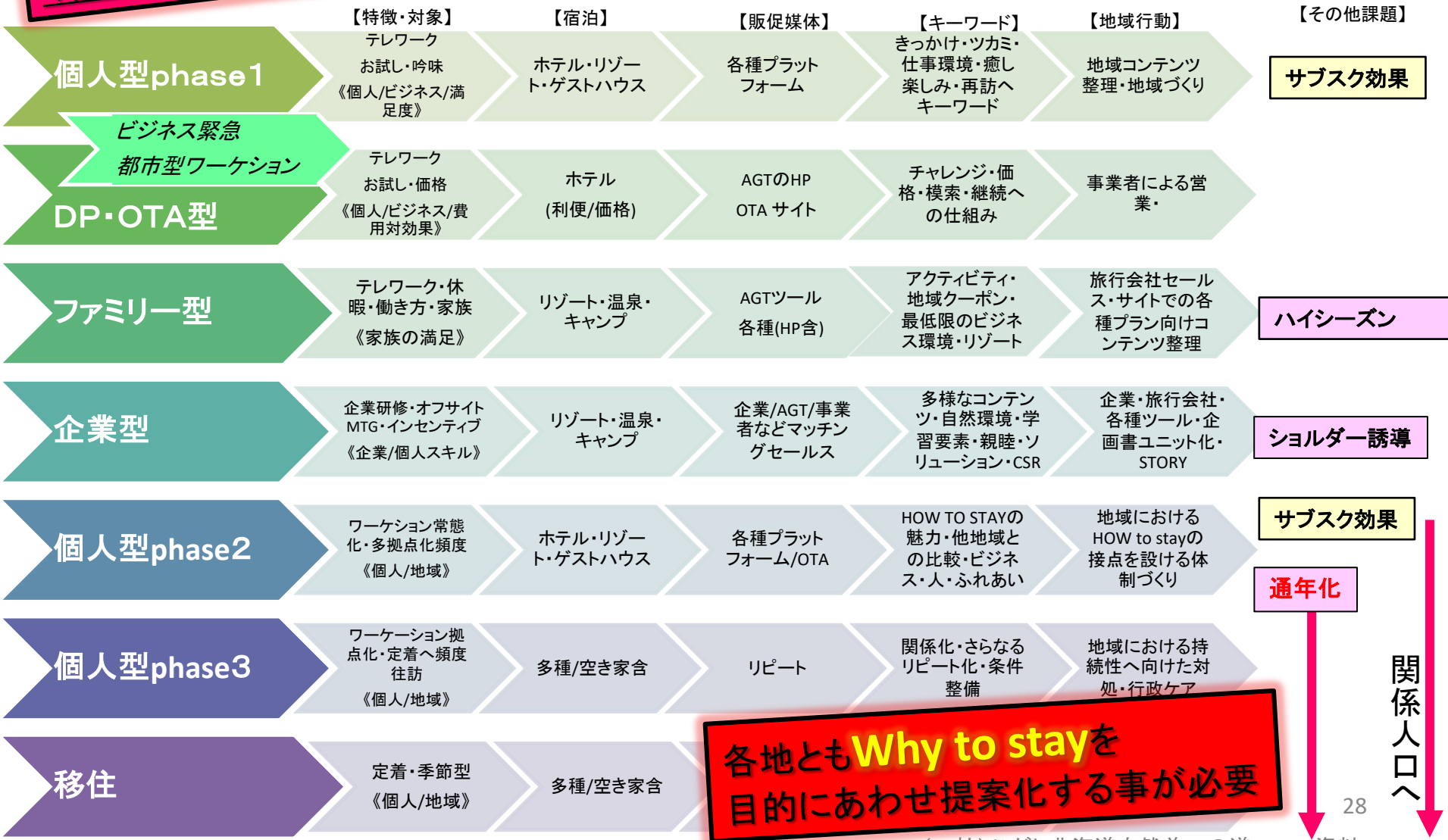
団体

~この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる~ Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

無断転載禁ず

どの地域がどのタイプに
マッチングするのか?

各地のワーケーションの分類



各地ともWhy to stayを
目的にあわせ提案化する事が必要

～この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる～
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

どの地域がどのタイプに
マッチングするのか?

広義のワーケーション全体概要④

無断転載禁ず

【特徴・対象】

【宿泊】

【販促媒体】

テレワーク

お試し・吟味

《個人/ビジネス/満
足度》

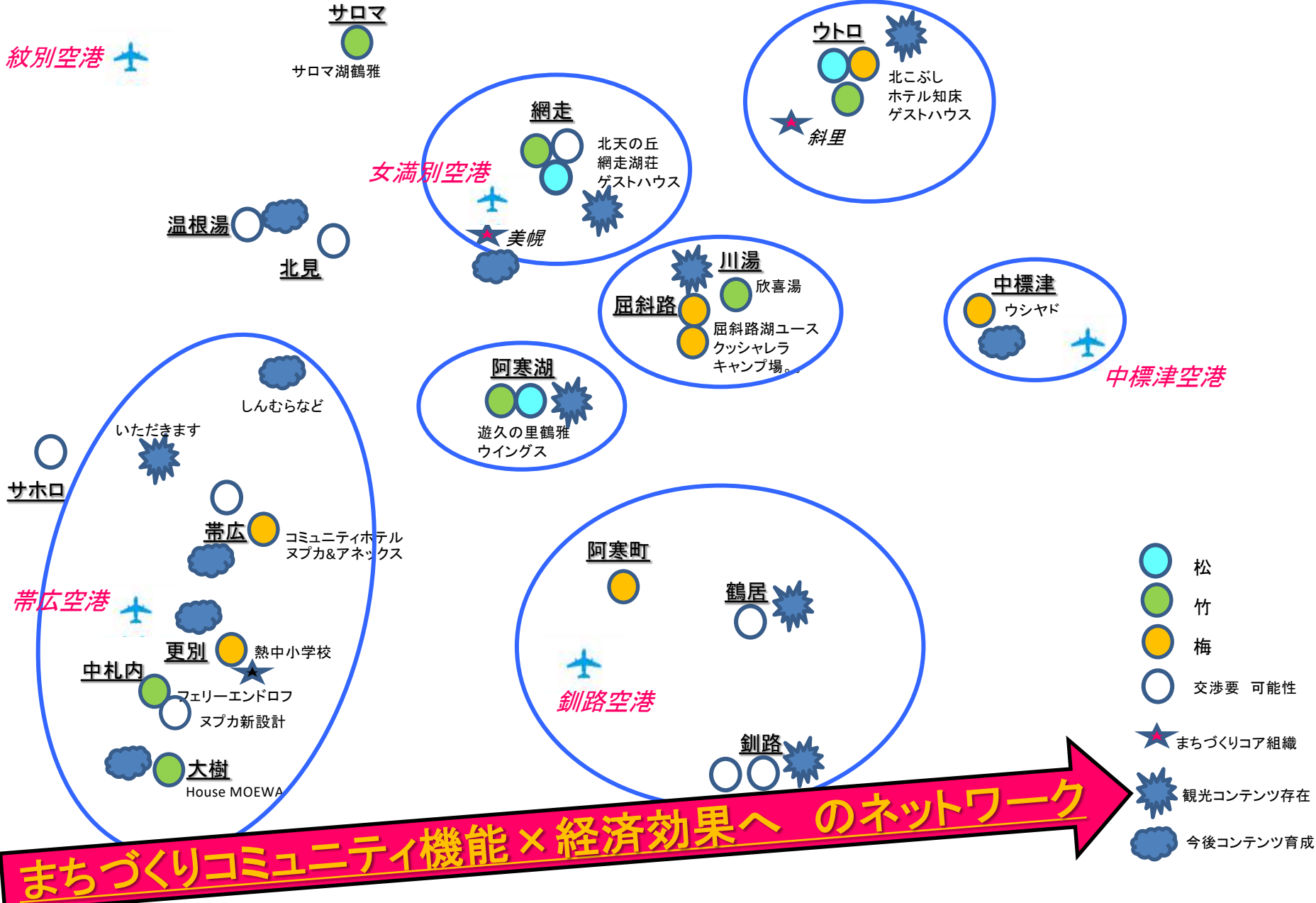
個人型phase1

ビジネス型

各地は決して
表だけでは表現できない
特徴と課題を持っている

必要

ひがし北海道ワーケーションネットワーク Hafhとの整備状況



- 松
- 竹
- 梅
- 交渉要 可能性
- まちづくりコア組織
- 観光コンテンツ存在
- 今後コンテンツ育成

まちづくりコミュニティ機能 × 経済効果へのネットワーク

【ひがし北海道各地のワーケーションへ向けたいくつかの顕著な事例】

○鶴居村

域内STORY《宿・CAFÉ・体験・食・コワーキング》の可視化完成⇒次なる課題は本命の農泊

○斜里町

市街地のテレワーク基盤による企業タイアップSTAY実現⇒自然×宿泊 観光ビジネスの実現

○美幌町

移住を目指しWEBコミュニティによる関係づくり体制を創出⇒Identityアップへの連携模索

○帯広市

暮らすように過ごす都市型コミュニティデザインから地域商社⇒十勝へ 道東への拠点へ

○中標津

小さな町のゲストハウスでできる町との一体感 そして酪農⇒空路を生かした日本の端へ

まちづくりコミュニティ機能×経済効果への模索



いのちに感謝し、北海道の豊かな食を最高の環境で提供できる面白さ
 感謝の一生、享受北海道の美食
 可以在最佳环境中提供的乐趣



「いただきます、エゾシカ肉の煎菜とロースト」
 料理長 大地さん

「ジビエは面白い」。料理長大地さんはそう言って、目を輝かせる。きっかけはイタリアへ留学し本場のスロウフードを体験したこと。地元で得てみれば、腕のいい猟師兼食肉処理の職人がいて、本格ジビエに取り組める環境があった。「命をいただくからには、おいしく、できるだけ余さず活用したい」。新たな食文化の芽が、鶴居村に育ちつつある。

“吉比尔很有趣。” 那部大地 (Daichi Hattori) 这样说，让她的眼睛闪闪发亮。这一切都是她在大忍人村中学。体验正宗的慢食。当在回到家时，有一个优秀的猎人和肉类加工师，而且还有一个可以从事游戏的环境。“因为我有生活，所以我想尽可能多地利用它。” 鹤居村 (Tsurui Village) 正在生长着一种饮食文化的新芽。



ハートンツリー
 服部 大地さん
 Daichi Hattori

Tsurui village INFORMATION

鶴居たんちょうプラザ つるぼーの家 鶴井谷町広場鶴井



さまざまな村の特産品(P.26)を販売。村の牛乳を使用した、たんちょうソフトクリームが人気。我们出售适合作为纪念品的乡村特色菜。使用乡村牛奶的清凉奶饮的御供受欢迎。

SHOP DATA

鶴居村鶴居本1丁目1-3 鶴井村 ☎0154-64-5250
 ○営業 9:00~18:00 休 9:00~17:00 / 本週休 木曜日
 不定休 休 日
<https://tsurui.village.com>



鶴居運動広場 鶴井体育広場



ゴーカートやスワンボートなどの遊具、テニスコートやキャンプ場、バーベキューコーナーなどがある。我们出售适合作为纪念品的乡村特色菜。使用乡村牛奶的清凉奶饮的御供受欢迎。

SHOP DATA

鶴居村鶴居本1丁目1 鶴井村
 ○営業 7:00~10月 9:00~17:00 / 本週休 木曜日
 不定休 休 日

つるい村民の森 オートキャンプ場 鶴井村民の森林汽車露营地



村民の森に隣接する有料キャンプ場。炊事場、トイレなどを完備。フリーサイトとパワーサイトがある。我们出售适合作为纪念品的乡村特色菜。使用乡村牛奶的清凉奶饮的御供受欢迎。

SHOP DATA

鶴居村鶴居本1丁目1 鶴井村
 ○営業 7月1日~8月31日まで使用可能(チェックアウトは12:00)
 不定休 休 日

移住体験施設 辻移住体験施設



生活に必要な設備が整った、ちょっと暮らし施設(鶴居地区、磯島地区)。長期滞在におすすめ。我们出售适合作为纪念品的乡村特色菜。使用乡村牛奶的清凉奶饮的御供受欢迎。

SHOP DATA

住所 〒014-4 61112 (鶴居村) 辻移住体験施設
 料 金 / 1ヶ月 70,000円(5月~10月)、91,000円(11月~4月)
 1ヶ月 70,000円(5月~10月)、91,000円(11月~4月)

ACCESS



→鶴居村のワーケーション・農泊へ

《STORYと可視化》

宿

カフェ

レストラン

体験メニュー

・コンテンツ

食のこだわり

テーマ

過ごし方

・モデルステイ

《ホストとゲストの接点》

人
食

ふれあい

コロナでできなかった
キーワード

暮らすように旅する

農
泊

しれとこ斜里テレワーク

概要

しれとこらぼ

体験者の感想

知床スロウワークス

連携事例

アクセス

予約・お問い合わせ



知床スロウワークス
滞在中のサポート

～平成27年度総務省委託事業 オホーツクふるさとテレワーク推進事業～

北海道オホーツクの中核・北見市(地方都市)と知床世界自然遺産の斜里町(過疎地域)が連携。国立工業大学と大自然の魅力を活かすオフィス4拠点に、地元住民・企業・大学・行政が一体で受入れ、いつもの仕事ができるICT環境と遠隔雇用ノウハウで「ふるさとテレワーク」の広域・持続・発展モデルを実証した。

大学隣接型サテライトオフィスで業務。
学生インターンを受入



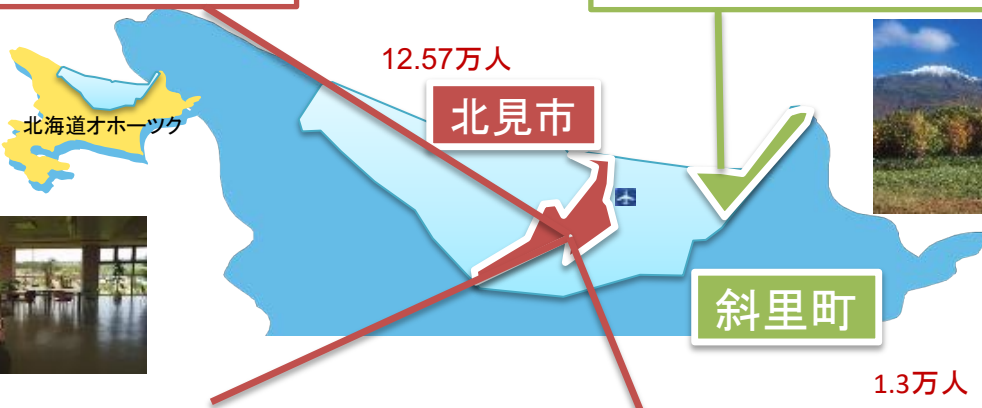
商店街利用型テレワークセンターで業務。
地元テレワーカーと交流



職住一体型サテライトオフィスで業務。
合宿形式の業務で生産性向上



自然隣接型テレワークセンターで業務。
地元住民と交流・家族と長期滞在



- 人材確保
- ・新規採用
 - ・地元採用
 - ・福利厚生
 - ・働き方改革
- CSR活動

～平成28年度 テレワーク推進事業～

平成28年度もテレワーク事業を継続。

地方創生加速化交付金・地方創生推進交付金を活用し、施設の整備(2階居住スペース)や企業誘致、モニターツアーなど地域での受入体制強化を実施。



お客様との対応もTV会議。



東京や大阪のオフィスと
テレビ会議で常時接続

～平成29年度 テレワーク推進事業～

平成29年度地方創生推進交付金を活用し、長期滞在用テレワーク施設の設置や企業誘致を実施。
また、新たなテレワークの形として、首都圏企業の管理職を対象とした「働き方リーダー合宿」を実施。

企業の管理職を対象とした
「働き方改革リーダー合宿」を開催



斜里町のテレワーク事業を
モチーフに小説の出版



合宿の合間に
テレワークの時間を確保



長期滞在用
テレワーク施設を設置

町民向けフォーラムなどテレワークの
地元向けの普及啓発活動の実施



～平成30年度 テレワーク推進事業～

平成30年度も地方創生推進交付金を活用し、長期滞在用テレワーク施設の設置や企業誘致を実施。また、来町企業による地域の課題解決等に向けた取組みの推進。

テレワーカーが特別授業を実施し
地元高校の全国大会入賞を達成



テレワーカーの作品による
フォトコンテストを実施

テレワーカー同志の交流促進のため首都圏で交流イベントを実施



町民向けのフォーラムや様々な分野におけるテレワーカーと町民の交流企画の実施



テレワーカーによる
ハロウィンイベント用の
アプリ開発・提供



～令和元年度 テレワーク推進事業～

令和元年度も地方創生推進交付金を活用し、企業誘致やPR活動を実施。来町企業と連携した取組みを実施。

テレワーク企業との連携協定の締結

町内中学校での
テレワーカーによる特別授業



しれとこ斜里ねぶたへの参加



町内でのテレワーク企業の活動を
紹介するフォーラムの開催



テレワーカー同志の交流促進のため首都
圏で交流イベントを実施



テレワーカーと町民による
ドローンイベントの開催

～令和2年度 テレワーク推進事業～

【主な事業内容】

○「斜里町におけるテレワークのPR強化」

→SNSを活用した広告の実施

○「ワーケーションキャンペーン企画(案)の実施」

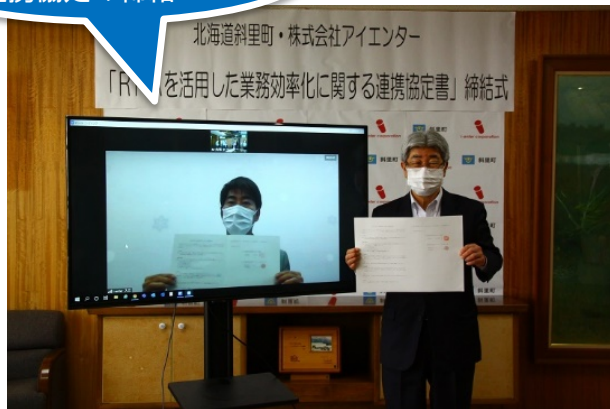
→新型コロナウイルス感染症対策を考慮した形でのテレワーカー誘致企画の実施

○その他

・RPAを活用した業務効率化に関する連携協定

・テレワーカーによる地域企業との結び付きの促進 など

テレワーク企業との
連携協定の締結



地元高校におけるテレワーカー
によるゼミ講師対応(通年)



～テレワーク推進事業について～

テレワーカーの来町状況

年度	利用企業数（延べ）	利用者数（延べ）	備考
平成27年度	8社	15名	総務省ふるさとテレワーク事業
平成28年度	47社	103名	モニターツアー実施
平成29年度	50社	107名	モニターツアー、テレワーク合宿実施
平成30年度	54社	141名	モニターツアー、テレワーク合宿実施
令和元年度	67社	165名	テレワーク合宿実施

・平成27年度以降のテレワーカーの来町数は、約200社、500名となり、年々増加傾向。

～テレワーク施設について～

斜里テレワークセンター 「しれところらぼ」の紹介



～テレワーク施設について～

1階事務スペース



【オープンスペース】

複数の企業等が同時利用可能。



【クローズスペース】

Web会議が可能な専用部屋。

～テレワーク施設について～

斜里町産業会館
コワーキングスペース⇒
(令和元年度設置)



←ウトロ漁村センター
コワーキングスペース
(平成30年度設置)

～町内のテレワーク推進体制について～

テレワークセンターの維持管理
テレワーカーの受入
テレワーカーへのおもてなし
町民向けセミナーの開催 など……

テレワーク事業の成功のためには
不可欠な団体



知床スロウワークス

～町内のテレワーク推進体制について～

知床スロウワークスとは・・・

【設立経過】

- ・H27年度の総務省の委託事業である「ふるさとテレワーク推進事業」において、地元の受入れ団体として急遽設立された任意団体。
- ・R1年度7月に、「一般社団法人知床スロウワークス」として法人化。

【構成メンバー】

町内飲食宿泊業経営者、団体職員OB、町内不動産業者、農業者、漁業者、その他、町内各種事業者で構成される。（役員約10名）

【団体の特徴】

主要なメンバーは、以前から移住・定住者が多く携わっており、町外からの来訪者に対しておもてなしの経験が豊富であり、ノウハウが豊富に蓄積されている。



～町内のテレワーク推進体制について～

知床スロウワークスの役割

普及啓発

交流企画

“知床スロウワークスがサポート”

生活支援

仕事支援



アフターコロナ時代の Living Shift オンライン移住ツアー “同じ釜の飯”

8/22(土)~10/14(水) 計33名





いただきます！

北海道の東！オホーツク美幌町

北海道ローカルと オンラインジンギスカン パーティー

ジンギスカン専用の

『鍋』が付いてくる！



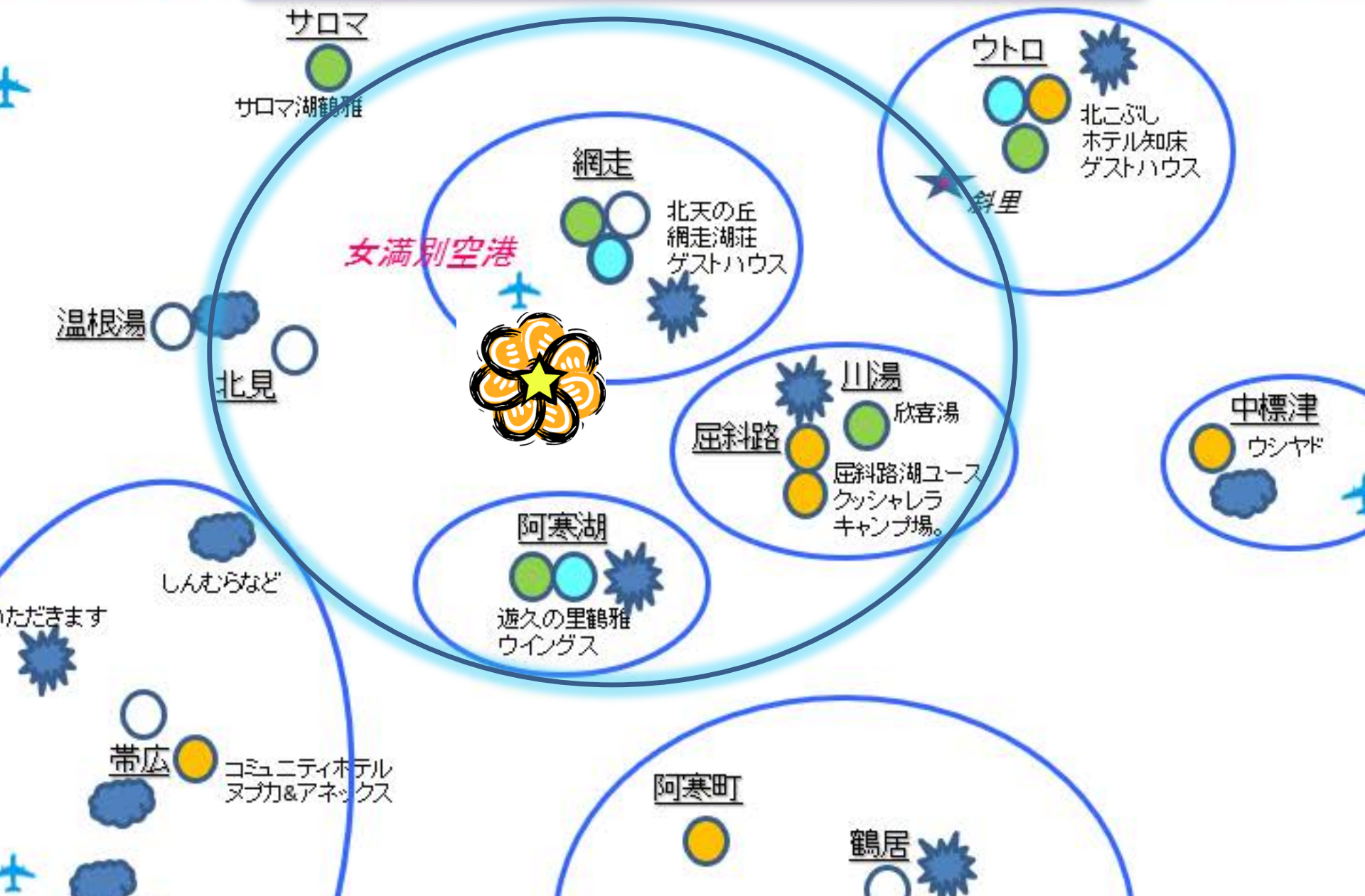
I LOVE HOKKAIDO♡



こだわり有機野菜セット付き！
『6年連続景色の良い道の駅
No.1』絶景美幌峠の雲海
&有機農場ツアー



美幌から何か始められないか





北海道十勝と世界を繋ぐホテルヌプカの取組みと 「関係人口の創出及び拡大」への展望

- Afterコロナを見据えた地域・地方の自立のあり方を中心に -

十勝シティデザイン/HOTEL NUPKA
坂口琴美





HOTEL NUPKA

2016年



- 映画自主制作メンバーの柏尾哲哉、坂口琴美が共同で事業開始
- 米国ポートランド市(オレゴン州)のACE HOTELから着想を得て事業企画を開始
- 帯広市中心市街地活性化協議会の認定事業、経済産業省の中心市街地再生事業補助金の支援を受ける
- ホテル/カフェ/イベント開催を柱として旅人と地元の人が集まり/出会いが生まれる場となる

1Fイメージ
ACE HOTEL PORTLAND



「ヌプカ」運営の十勝シティデザイン



協会加盟を発表し握手を交わす(左から) 柏尾氏と坂口社長、宮崎代表理事

「ホテル・ヌプカ」運営の十勝シティデザイン(帯広、坂口善太郎)は26日、街全体をホテルに留めて地域活性化に振り回し施設などで構成する「日本まちやど協会(東京)に加盟した。人の流れを自由に促す仕組みを進めたいと考え、別の隣に隣にスペースの映画上映の定期開催やまじりのメニューを地域で検討する場まちやどホト」も若上げる。近隣のビル等の空き室を活用した自社ホテルの運営床といった新たな構想について公表された。

街全体をホテルに

「日本まちやど協会」加盟

映画定期上映、客室増床も

26日朝、日本まちやど協会の宮崎吉代表理事(建築)、ホテル・ヌプカの坂口社長、創業者の柏尾哲氏(東京)が同ホテルで発表された。同協会は2016年設立された一般社団法人。輸代表理事は、東京・宮中地区でホテルを運営する家を営む。地域の飲食店や土産店、雑貨店が一体で宿舎をもつ体制を構築。エリアのアルベルゴ・テラス(受付)や接客、売店が街に分散した宿舎をホテルに運営を立ち上げた。現在、高松(香川)など施設が登録されている。ホテル・ヌプカは、歩いて旅する「歩く暮らし」をコンセプトに16年、元々老舗ホテルを改装して運営した。オリジナルビルの開発や、中身の温泉マツプカ館のほか、施設を拠点

2018年(平成30年) 10月26日 金曜日

あすの帯広 14℃ 6℃

発行所：十勝毎日新聞社 〒080-8688 帯広市東1条南8丁目 編集 ☎0155-22-2121 広告 ☎0155-23-2323 販売 ☎0155-24-2222 専線 ☎0155-22-7555 掲載 ☎0120-25-3999

2×6輸入住宅 セルコホーム 帯広

株式会社 タム TEL090-8688-5000

2018年

- 街全体を一つの宿にみたてる「まちやど」型事業を促進する「日本まちやど協会」に参画
- 食の大地北海道十勝の中心に位置する帯広街なか全体を食の体験地とする構想
- 近隣のビルの1室にホテルヌプカの2ndラウンジ「ヌプカ オンライン」を作り、ホテル建物の外に向けた場づくりの取り組みを開始
- 今後、サテライト型ホテルの展開を目指していく構想



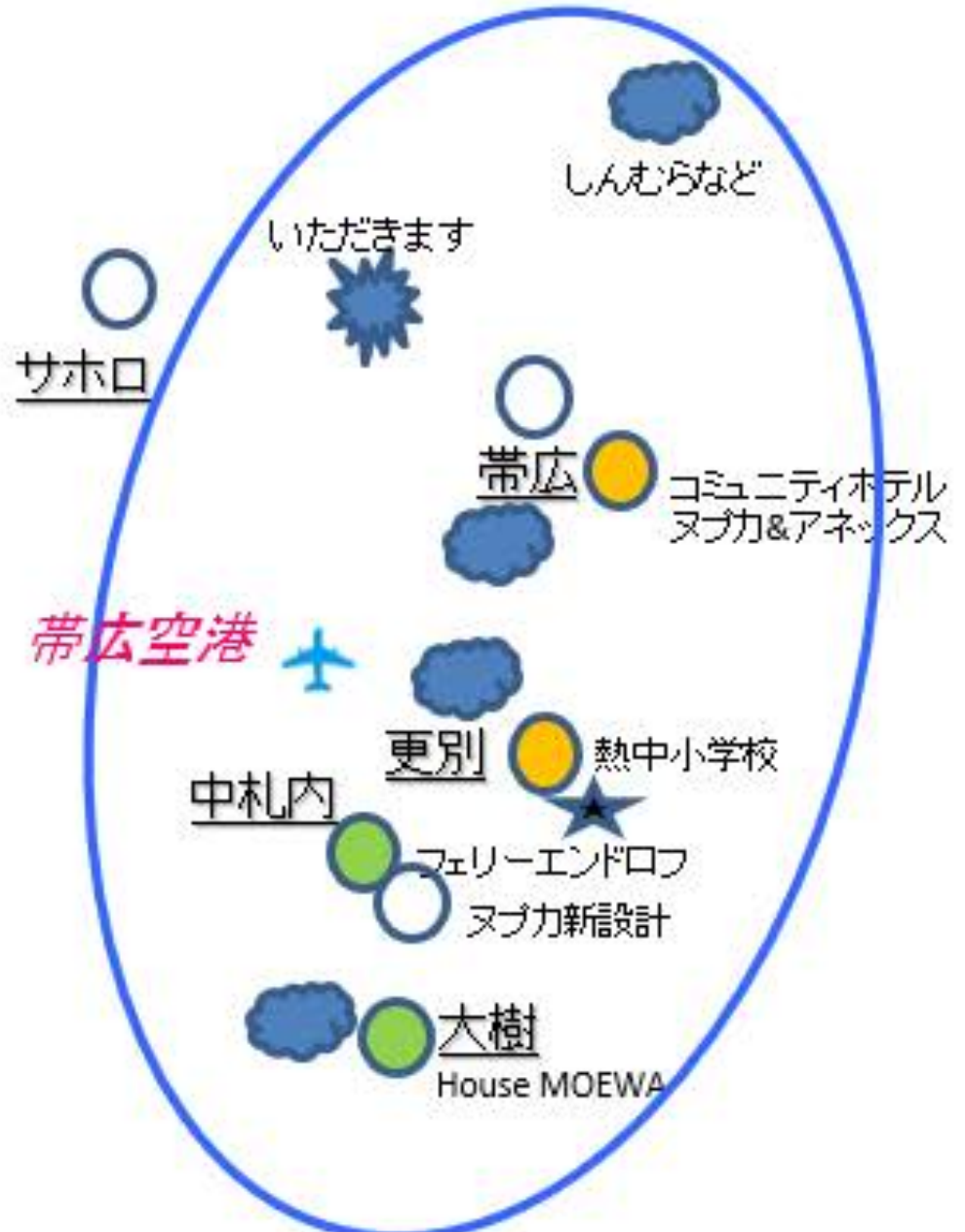
帯広「まちやど」を拠点に
十勝エリアを全体を満喫

十勝広域エリア

農業、自然、景観、アウトド

帯広「まちやど」

飲食体験、都市型カルチャー / 人との交流 & コミュニティ



短編映画



リノベホテル



クラフトビール



まちやど



地域商社



馬車BAR



?????

BASHA BAR



2019年

- 2019年4月より、帯広の夜の街なかを輓馬ムサシコマが曳く馬車で巡る「馬車BAR」ツアーの運行を開始。
- 馬車は高級感あるBAR仕様、車内または2階席にて旅のはじまりのビールやローカルフードなどを楽しめる。
- 世界で唯一「ばんえい競馬」が開催される十勝だから開催できるプレミアツアー。
- 運行を継続・拡大することで馬と人が共存する新しいコミュニティ作りに繋げていく構想



With/Afterコロナからの展開

3密の回避



移動への制限



リモートワークの普及



通勤の負担がなくなる



在宅勤務→仕事はどこでも



100年人生への備え



移住 or 多拠点居住



本業と副業



地方を拠点とした
仕事と暮らし

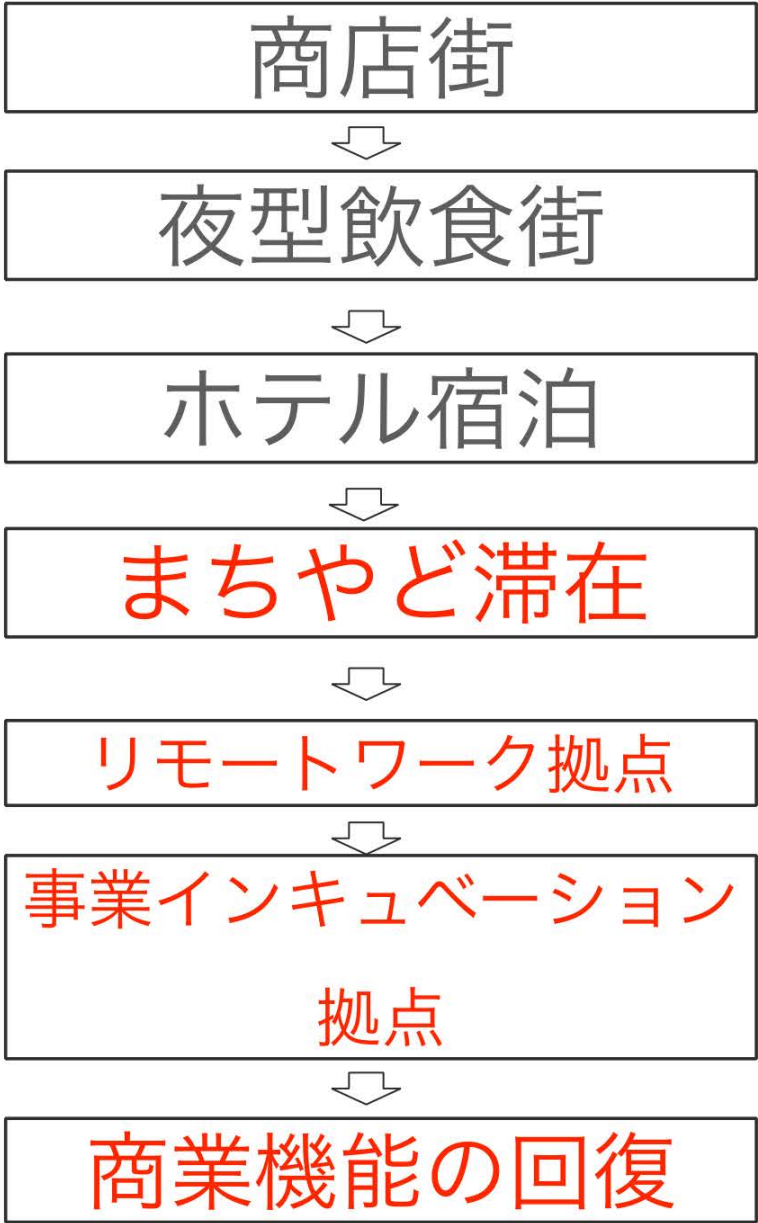


暮らしも
より快適な場所で

ワーク（仕事）
+
バケーション（休暇）
+
イノベーション（革新）

= リゾベーション

十勝・帯広リゾベーション協議会



これまでの蓄積



今後の蓄積

ワーケーション推進に基づく 関係人口創出拡大に向けた連携協定



(エントランスでの情報発信イメージ)



イラストマップ集



my little guidebook

QR =

ワーケーション等の推進に基づく関係人口創出・拡大に向けた協定締結式

～第一生命保有不動産を拠点として帯広市、シティデザイン(株)、生命保険(株)が推進～

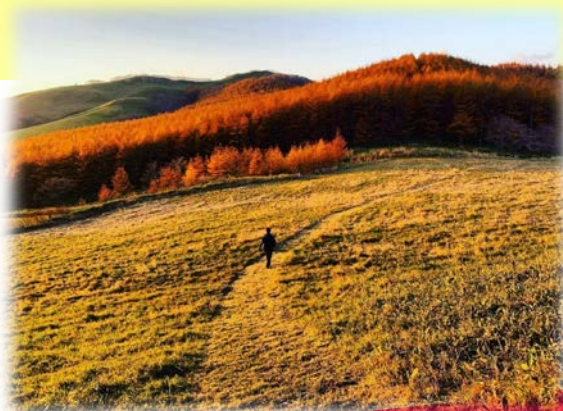


帯広市長
米沢 則寿

『牧場の資源を活用した 都市農村交流ビジネスの展開』



- 山奥にいた酪農家を引っ張り出した「中標津地域雇用創造協議会」
- まち宿って？ 「地域と生きるゲストハウス開業塾」
- 相棒との出会い 「農商工連携観光案件北海道初認定」
- 地域の課題 中標津について 「観光か移住か」
- プラットフォーマー戦略 「循環型観光」



目指す方向は何年経っても【ウシ】

から考える

ushiyadoの取り組み

町のご案内
イベント情報
牧場アクティビティの紹介、運営
バター作り体験
コラボイベント
レンタサイクル
料理教室
牛イベント
チーズ販売



牧場の資源を活用した 都市農村交流ビジネスの展開

まち宿として地域、中標津を巻き込むushiyado

まち宿の未来

泊まりに来た人が外に繰り出す機能
町の商業と連携
地域の情報発信メディア
サブスクのプラットフォーム
まち全体オールインクルーシブ
マイクロツーリズムでの境界線を越える

ワーケーション展開

空港から5分の立地条件
個人需要に特化
物、人、場所の『接続』機能
まちのサブスク
特定の場所とつなぐ
オンとオフの場所作り

計画的な偶然性

旅の醍醐味
偶然の良い出来事を必然に変える手法
旅人の履歴書によつてのペアリング
オープンマインドな地元民
必要な物人と繋がるコンタクトボタン
退屈をシェアする

点在する牧場



東京直行便

まちなか拠点

飲食店 活性化
サブスク オールインクルーシブ

×交流・マッチング＝牧場産業のまち



牧場の資源を活用した 都市農村交流ビジネスの展開

まち宿として地域、中標津を巻き込むushiyado

まち宿の未来

ワーケーション展開

計画的な偶然性



空港から5分の立地条件
個人需要に特化
物、人、場所の『接続』機能
まちのサブスク
特定の場所とつなぐ
オンとオフの場所作り



点在する牧場



東京直行便

まちなか拠点

飲食店 活性化
サブスク オールインクルジブ

×交流・マッチング＝牧場産業のまち
のワーケーション



紋別AP

女満別AP

釧路AP

帯広AP

ひがし北海道
ワーケーション
ネットワーク

ひがし北海道全体での
ワーケーションの優位性 → 戦略とテーマへ
~闘う相手は日本全国...。本州内地域連携に対抗した戦略~

最終的には **地域の総合力**
Destination managementの優劣ではないか?

さらに最終的には
地域愛の切磋琢磨



【各地のワーケーションへ向けた課題とパネラー】

○ **鶴居村** NPO法人美しい村鶴居村観光協会事務局長 服部政人
域内STORY《宿・CAFÉ・体験・食・コワーキング》の可視化完成⇒次なる課題は本命の農泊

○ **斜里町** 北こぶし知床ホテル&リゾート専務 桑島俊彦
市街地のテレワーク基盤による企業タイアップSTAY実現⇒自然×宿泊 観光ビジネスの実現

○ **美幌町** 美幌町まちづくり協議会プロジェクトMGR 木村利昭
移住を目指しWEBコミュニティによる関係づくり体制を創出⇒周辺連携による効果で増幅

○ **帯広市** 十勝シティデザイン代表取締役 ホテルヌプカ支配人 坂口琴美
暮らすように過ごす都市型コミュニティデザインから地域商社⇒十勝へ その奥の道東へ

○ **中標津** (有)竹下牧場代表取締役 (一社)みらい創造なかしべつ 代表理事 竹下耕介
小さな町のゲストハウスでできる町との一体感 そして酪農⇒空路を生かした日本の端へ

ひがし北海道各地における

- ワークーション論点整理
- 課題と可能性

① 宿・まちの一体感 → アルベルゴ・ディフーズ

2月のシェアリングシンポジウムにおける道庁山崎次長基調講演題材

アルベルゴ・ディッツフーズとは？

○アルベルゴ（伊：Albergo）

ホテル

○ディッツフーズ（伊：Diffuso）

分散した、拡散した



分散したホテル

アルベルゴ・ディツフーズとは？

○一般的なホテル

- ・基本的に、一つの施設で、ホテルの全てのサービスを提供

垂直型



アルベルゴ・ディッツフーズとは？

○アルベルゴ・ディッツフーズ



集落内の複数の建物を、一つのホテルの施設として利用

水平型

アルベルゴ・ディッツフーゾの魅力

○州によっては、レストランで出す料理にも規制

・地元の食材

・地元の料理

cf アグリ・ツーリズムでは、多くの州で規制

Borgo di Castelveterere

○17の建物で構成

○総ベッド数 50



Borgo di Castelveterere

○ Zona CASTELLO

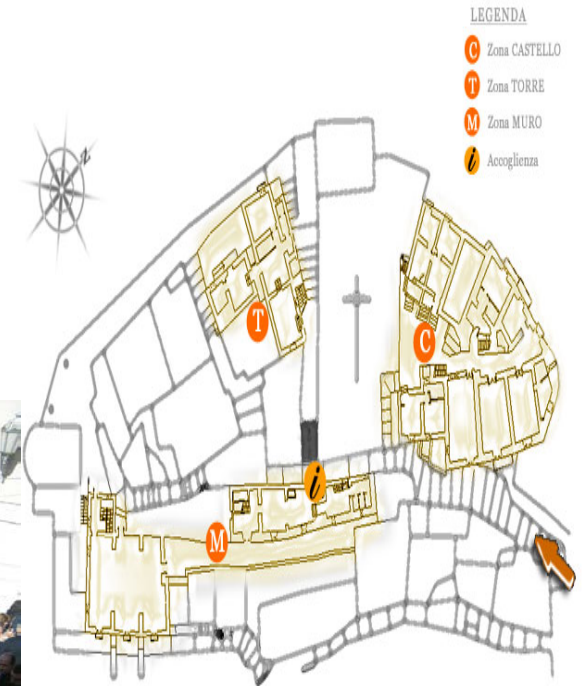
- 空き部屋を宿泊部屋としたアパートがメインのエリア
- 「Bottega」と呼ばれる伝統的な工芸品の土産品店も



Borgo di Castelveterere

○ Zona TORRE

バー、レストラン、オフィ
スのある地区



ひがし北海道各地における

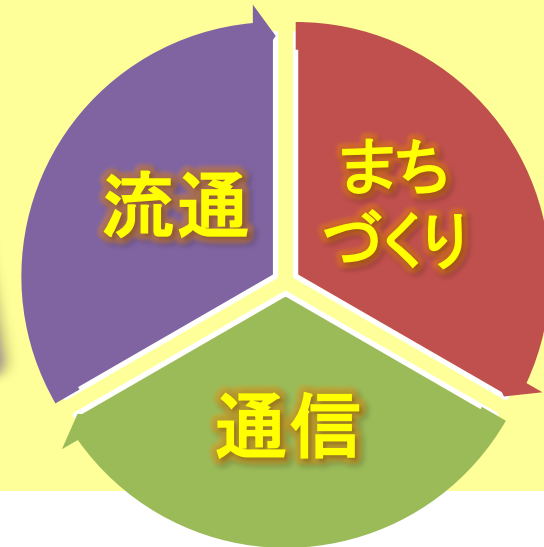
- ワーケーション論点整理
- 課題と可能性

①宿・まちの一体感➡アルベルゴ・ディフーズ

2月のシェアリングシンポジウムにおける道庁山崎次長基調講演題材

②経済効果/マネタイズへ向けて...

地域ごとにバランスを模索？





~この機会に改めて北海道らしさと自然美を持続的に生かす道をさぐる~
Beyond COVID-19 ひがし北海道 新・観光スタイル

再掲

ワーケーション 経済効果への図式

各タイプと客層



どうやって観光事業と一体化した経済効果へ



ひがし北海道各地における

- ワーケーション論点整理
- 課題と可能性

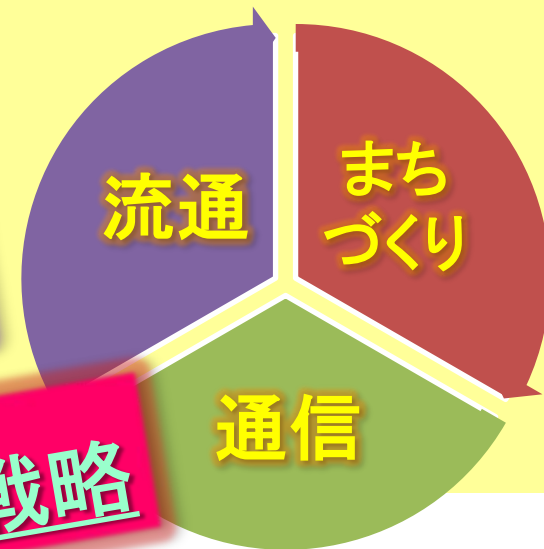
●宿・まちの一体感 → アルベルゴ・ディフーズ


2月のシェアリングシンポジウムにおける道庁山崎次長基調講演題材

●経済効果/マネタイズへ向けて...

地域ごとにバランスを模索？

一方で、ひがし北海道の戦略





御静聴有難うございました

ひがし北海道 自然美への道 DMO

野竹鉄蔵 notake@lake-akan.com